

大阪の 社会福祉

2020.12

787

The social welfare
in OSAKA

- 「コロナの中で」③ 弱っている人を真っ先に
～なんでも相談役を引き受ける～ 2
- 市社協・区社協
「新型コロナウイルス感染症の理解と活動再開への支援」 3
- 旭区 地域福祉活動の「再開」を一緒に考える
～小地域活動者大情報交換会～ 4
- 西区 「持ち帰り脳トレ」で高齢者の外出促進
鶴見区 変わりゆく地域の状況を継続的に共有
中央区 手作りパーティーションで、再会を実現
「ZOOMを使ってみよう」 5
- 都島区 ICTの壁を壊せば、世界は広がる
～全3回の「シニア向けZOOM講習会」を開催～ 7
- こんなことやっています！私たちの施設から、
社会福祉法人治栄会「相談機能強化を目指して」 8



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>市社協
区社協

コロナ禍を

共に乗りこえるために

新型コロナウイルスが再び猛威を振るいはじめ、日に日に感染者数が増加している。工夫をこらしてやっと再開した活動を、そのまま続けるか、別の方法に切り替えるか、中止にするか、再び揺れ動きやすい状況になっている。

今号は、この事態を乗りこえるために、「話し合いの機会を持ち、一緒に考える」ことを実践する地域福祉活動者の声や区社協の取り組み等を紹介する。市社協・区社協も、共に考え、支援していく。

今月の
コロナの中で

▶今回は、東住吉区東田辺地域福祉サポーターの松下由佳子さんにお話をうかがった。コロナの中でも、東田辺会館を拠点に明るくパワフルに活動中。（2面に掲載）



◀大賑わいだった「なかよし食堂」も、現在は調理や会食を見合わせている。その間ボランティアの気持ちが見通しを共有している。

HB

まだ若いと思って
いたが、先日思いき
って運転免許証を返
納した▼きっかけは、

歩いていて、バックしてきた車に追突されたこと。ふくらはぎとアキレス腱に突然激痛が走って、何がどうなっているのかわからないで戸惑っている、若者が車から降りてきて、しきりに弁明▼そして、すぐに病院に行ってくださいと言い、何かあればすぐに連絡してくださいと名刺を出した。これまでに何回も事故を起こしているのではないかと思えるような手際の良さだ▼ぶつかった瞬間にブレーキを踏んだ反応の速さといい、若者でなければできない対応だと思った。そう考えると、私が運転して事故を起こしたら、大きな事故になり、さらに被害者を立腹させるに違いない▼確かに車があると便利だろう。しかし、それが加害者になる可能性を含んでいるとすれば、多少不便でも公共交通をうまく活用したいと思った▼そして、警察署に行った。免許を返納することは歓迎されると思っていたけれど、窓口の女性は淡々と事務的に処理。おまけに証明書発行に、1100円の手数料も取られた▼それでも、私は返納した。（石）

コロナの中で③

このコーナーでは

新型コロナウイルスの影響下において地域福祉に関わるさまざまな「人」に焦点を当てて、インタビューを通して、その人ならではのストーリーや思いに迫ります。

高齢者の多い地域を 居場所づくりで明るく

松下由佳子さんが、ネットワーク推進員（現・地域福祉サポーター）として活動を始めたのは28年前。引越して



東住吉区東田辺地域福祉サポーター
まつした ゆかこ
松下由佳子さん

プロフィール：平成4年、初代ネットワーク推進員に就任以来、さまざまな居場所づくりに携わっている。ヘルパー、子育て支援サポーター、笑いヨガリーダーやコグニサイズ、シナプソロジーのインストラクターの資格取得者。夫と2人暮らし。

数年が経ち、小中学校のPTA役員を通じて、地域のが少しわかってきた頃だった。

引越してきた当初「高齢化率が高く、少しさみしいところだな」と感じた松下さんにとって、高齢者に対する相談業務や居場所づくりは、まちを明るくできるという意味でもやりがいのある活動だった。

年々、松下さんの活動の幅は広がり、現在、東田辺会館を拠点に、ふれあい喫茶、食事サービス、なかよし食堂（こども食堂）、親子サロン、健康づくり教室、だいじょうぶネット（認知症の人の介護家族の会）など、数多くの事業に携わっている。



認知症の人の介護家族の会「だいじょうぶネット」は6月から再開

コロナ禍だから できることがある

新型コロナウイルス感染を防ぐため、早いものでは3月から活動がストップした。「これまで続けてきたことが全部覆され、手も足もでないと感じました」。しかし、松下さんは「今だからできることを」と気持ちを前向きに切り替え、事務員とともに、ウィルスを掃き出すように、会館にある椅子、網戸、サッシを洗い、倉庫内を整理し、必要なものを処分していった。

緊急事態宣言が解除された5月下旬、会館には、外出できず弱っていく高齢者や、家に閉じこもり子育てに疲れた母親の情報が次々と入ってくる。自粛生活も限界、待ったなしだった。松下さんは事業再開の形をひたすら考え、相談し、何度も町会長会議で意見を求めた。いち早く6月から再開した

弱っている人を真っ先に —なんでも相談役を引き受ける—

のが、だいたいじょうぶネットだ。「認知症の方を介護する人の精神的なサポートは必須。重くて先の見えない介護の不安やストレスで命の危険も」という危機感からだ。

その後、感染リスクに配慮しながら他の活動も7月から徐々に再開。松下さんは弱っている人に対し真っ先に手を差し伸べる。健康づくり教室は、年配者から順に声をかけた。高齢者宅への訪問活動でも、町会長とともに心配な人をピックアップして訪問し、区社協が準備したマスクとタオルのセットを渡した。町会長の訪問はサプライズだったようで「町会長さんがわざわざ来てくれたと、ひどく感激されました」と話す。

健康づくり教室などで松下さんを勇気づけるのは、20年来の付き合いになる80、90歳代の女性3人組がまだまだ元気なことだ。「どこにでも顔を出されるし、『松下さんに言われたから』とコロナ禍であっても散歩を欠かされません。言った本人は、さぼっているのが焦りますね…」

松下さんは、励まし、励まされる関係が実感できるこの地域とともに、成長しながら歳をとると決めている。



健康づくり教室はコグニサイズやシナプソロジーの資格が活かせる（コロナ前の様子）

困りごと、 楽しい企画も

地域に密着した活動を長年続けていくうちに、学校から商店街までネットワークが広がり、困りごと、楽しい企画も、「何かあったら松下さん」とすっかり地域の顔になった。「連合町会長に『電話番でいいよ』と頼まれ気楽に参加したのに、こうなるなんて思ってもみませんでした」と驚いている。

新型コロナウイルス感染症の 理解と活動再開への支援

市社協では11月6日に区社協職員研修「新型コロナウイルス感染症の理解と活動再開への支援」をオンライン開催し、職員91人が参加しました。

福祉局高齢福祉課（講師・齊藤和美係長／保健師）による当日資料をもとに、活動再開を支援するうえで知っておきたい点をまとめて紹介します。

感染状況は日々変化し、区ごとの方針やガイドライン等もあるため、ここで紹介する情報がすべての活動にあてはまるわけではありませんが、まずは正しい知識を共有して、区・地域の状況に合わせた活動再開について話し合ってみてください。

なぜつながりが 必要なの

新型コロナウイルスの感染を恐れる気持ちはなくありません

が、集まらないことやつながりが途絶えることで、心身の健康に与える影響の大きさもまた見過ごすことができません。新型コロナウイルスの感染を正しく恐れながら、可能な限り、活動・交流を続けられる方法を考えていきましょう。

感染しない・ させないために

新型コロナウイルスは飛沫感染・接触感染で感染します。ウイルスがある程度の量、粘膜（目・鼻・咽頭）に付着すると感染しますが、皮膚から吸収されるものではありません。

1 接触機会を減らす

実施時間を短縮する、オンラ

インツールを活用する、郵送を使うなど、直接対面する機会を減らします。

2 飛沫（ウイルス）を薄める

30分に1回、10分程度の換気をおこないます。窓を10cm程度開け、扇風機やエアコンで風の流れを作ること効果的です。

3 大声を出さない

マイクを使用したり、注意事項等は張り紙を活用したりします。

4 飛沫を浴びない

会話時は相手との距離をとる、マスク・フェイスシールド等を使用する、アクリル板で区切るなどの飛沫対策をします。これらを組み合わせるとよりリスクが下がります。歌う時は、口を開けない鼻歌や外向きに輪になって控えめに歌うなどの工夫が必要です。

5 飛沫が付着する物は 個人使用・使い捨て

タオルの共用はせず、ペーパータオルを使用します。共有する物は、使用後に消毒する、

または、触れずに3日間放置するようにします。週一回程度の使用であれば消毒は不要です。飲食の際は、大皿で取り分けせず、個別に用意します。

6 手洗い・うがい

ウイルスが付着した可能性があれば、手を石けん・流水で30秒程度洗い流します。手洗いの消毒は不要です。うがいは手洗いの後、清潔な手でおこないます。

感染が起こりやすい 状況をどう防ぐか

1 6の感染防止策を講じていても、リスクはゼロにはなりません。しかし、万が一、陽性の方が参加していてもクラスター（集団感染）とならないように、対策をおこないます。

◎屋内活動

体を動かす場合は常時換気（気候がよい時期は全開、気候により全開できない時は冷暖房をつけて全部の窓を10cm開放）し、マスクを着用します。講義形式の場合は30分に1回10分程度2方向の窓を10cm開け、マスクを着用します。

◎発声・大きな呼吸を伴う活動（歌・民謡・吹く楽器等）

可能な限り、窓を全開します。気候により全開できない場合は冷暖房をつけて全窓を10cm

程度開放します。吹く楽器は、吹く方向・息の出口に人がいないようにします。マイクは一人ずつ消毒します。

◎屋外活動

常時2m以上距離をとれる場合はマスクなしでもよいですが、距離をとれない場合はマスクを着用します。

◎飲食

会話時は必ずマスクを着用します。食べる時はマスクを一瞬外し、食べ物等を口に入れたら、すぐマスクで覆う、あるいはアクリル板を適切に設置するなどの対策をします。調理時の味見は息の方向に人が立たないようにし、唾液が付いたものは放置しないようにします。

詳しく知りたい方へ

大阪市ホームページ内

「新型コロナウイルス
正しい理解と適切な予防+介護予防」

検索

にも、これらのポイントを
紹介した資料が公開されて
います。



新型コロナウイルス感染症が再拡大する中で、休止している地域活動を再開するか否か、活動者が直面するもどかしさは今現在も続いている。工夫をする、形を変える、感染予防を徹底するなど再開の決断をするのと同様に、待ってくれている人がいる活動の休止を続ける決断もまた、活動者にとって苦しいものである。4・5面では、活動再開についてともに考え、支援する区社協の取組みを紹介する。

旭 区

地域福祉活動の「再開」を一緒に考える

「小地域活動者大情報交換会」

旭区社協では、最新の感染対策の情報や他の地域の活動状況

を共有する場として、11月6日、旭区民センター大ホールで



活動再開への思いや不安をグループで共有

「小地域活動者大情報交換会」を開いた。集まったのは、ふれあい喫茶やふれあい型食事サービスなど、飲食を伴う活動をされている地域の方々。旭区内の各地域が飲食を伴う活動の再開について判断に迷う中、活動再開の後押しになればこの思いはもちろん、「地域で再開に

ついて話し合うきっかけになれば」との思いから企画した。まず、旭区役所保健福祉課の保健師・小山美保さんから「コロナ禍での介護予防活動」適切な予防について」をテーマに、改めて新型コロナウイルスについて知り、感染しない・させない対策について学んだ。

続いて、東住吉区社協の堀健一郎事務局長代理と生活支援コーディネーターの大地珠恵さんが、東住吉区での地域ごと・活動ごとの再開支援の取組みを報告。地域の役員やボランティア

と一緒に、実際に会館でレイアウトや感染対策を考え試してみること再開のイメージ作りをおこなったこと、また、区役所や地域包括支援センター、ボランティア、リハビリテーションセンター、介護事業所と区社協が連携して「体組成計測定会」を開催し、地域の会館へ出向いてもらうきっかけを作ったことなどが話された。

旭区でも区社協として何か支援できないかと考え、「ふれあい喫茶のチェックポイント」冊子を作成し、配付。感染予防チェックリストや注意書きの張り紙、受付簿などを取り出してコピーしやすいうにクリアポケットファイルが使われていたり、受付や会場の写真とあわせて分かりやすいく注意点が書き込んであったりと、再開に向け活用しやすいように細やかな工夫がされている。

最後に、各グループに区社協職員が入り、情報交換・全体共有がおこなわれた。「無症状で人に感染させてしまうことが怖い」「百歳体操を使うおもりは消毒しなければならぬのか」「暖房使用時は換気がしにくい、いい方法はあるか」など、実際の活動を思い浮かべながらの意見・質問が寄せられ、活動再開に向けてそれぞれの思いを共有できる機会となった。

旭区社協・生活支援コーディネーターの鎌田真央さんは「地域が活動再開に対して不安になったり心配したりする気持ちはよく分かる。今日の情報交換会はずいぶん再開を勧めるものではない。これをヒントに地域で話し合ってもらい、区社協も一緒に考えていきたい」と語った。



東住吉区社協の実践報告からヒントを得る

援できないかと考え、「ふれあい喫茶のチェックポイント」冊子を作成し、配付。感染予防チェックリストや注意書きの張り紙、受付簿などを取り出してコピーしやすいうにクリアポケットファイルが使われていたり、受付や会場の写真とあわせて分かりやすいく注意点が書き込んであったりと、再開に向け活用しやすいように細やかな工夫がされている。

「持ち帰り脳トレ」で

高齢者の外出促進

西区九条南会館では百歳体操の後、参加している人たちが椅子を並べかえて「第2部」に取りかかる。前週に脳トレプリントが手渡されており、翌週に皆でその答え合わせをおこなうからだ。百歳体操に参加していない人は会館まで脳トレプリントを取りに来てもらい、次週にその解答を渡すことで、外出の機会を提供する。西区社協・生活支援コーディネーターの石井まどかさんと地域包括支援セン

ターの大森亜希子さんが、外出を自粛している高齢者の足腰が弱ったり認知症が進んだりすることを防ぐために「なんとか高齢者が外出しやすくなる仕組みをつくれないか」と知恵を絞った結果、生まれた取組みだ。

参加者は80歳代が中心。ランダムな文字を並べ替えてもとの単語を見つける問題や、ひとひねりした計算問題などの答えを一人ひとり順番に発表。車座になって回答を発表していく「答え合わせ」は、それ自体が和気あいあいの交流の場になっている。

参加者に話を聞くと「毎週新しいプリントがもらえるのが楽しい」「家事の合間など、時間を見つけて脳トレにチャレンジするのが習慣になりました」と脳トレを楽しん

出席カードにハンコを押すのも、休まずに来てもらうための工夫のひとつ



でいる様子がかがえた。

脳トレを現場で支えているのは、見守りコーディネーターの加賀山守さん。できるだけ多くのの人に参加してほしいとの思いから、高齢者のいる住宅を一軒一軒、脳トレプリントを配って回ったという。石井さんは、加賀山さんの日頃からの地道な活動が参加者の維持・拡大を支えていると敬意を惜しまない。そして、「コロナの感染拡大が収まらない現状ではオンラインでの取組みも進めています。スマホやパソコンの苦手な高齢者が多いのも現実。脳トレプリントをきっかけにすることで、交流の場に参加する人、紙だけを取りに来る人など、さまざまな参加の仕方が生まれます」と高齢者のちょっとした外出の敷居を下げる可能性を話された。

家から会場まで歩くこと、頭を柔らかくする脳トレ、気心の知れた仲間との交流。この3つをかなえる持ち帰り脳トレの取り組みは、コロナ禍においてオンラインの活用だけでなく、いかにシニア世代と外の世界とのつながりを保ち続けるか模索している地域活動団体にとって、貴重なヒントとなるだろう。

鶴見区

変わりゆく地域の状況を

継続的に共有

鶴見区社協では、地域活動再開に向けて、今年7月、区内全12地域へヒアリングし、実態把握をおこなった。それらを報告書にまとめ、地域社協会長会等で地域や関係機関と共有。その後、地域ごとの状況に合わせて支援し、10月、各地域の福祉活動の再開状況やコロナ禍での新たな活動の取組み状況を「各地域における地域福祉活動の再開状況と活動を行う上での工夫」としてまとめた冊子を作成。この冊子の情報は毎月更新

し、会長会で報告するなど、区内の情報を共有しながら、継続的に支援している。



中央区

手作りパーティーションで

再会を実現

中央区社協では、新型コロナウイルス感染症の影響で長く活動の機会を持てなかった楽器演奏や歌などのパフォーマンスを披露するボランティアグループが活動できるよう、飛沫防止の特大大パーティーションを自作した。中央区在宅デイサービスセンターでは、さっそくボランティアを迎え、利用者と再会を喜びあった。



パーティーションの作り方は、区社協ホームページ内でも紹介



「やってみよう！」を応援

「どうやって教えるの？」を解決

「さあ！Zoomを使ってみよう」

コロナ禍において、ICTを活用したコミュニケーションは地域福祉活動においても確実に広がっています。使い慣れていない人、特に高齢者にとっては、ハードルが高いと思われるかもしれません。「やってみよう！」「やってみよう！」「やってみよう！」とあきらめてしまいう人も少なからずいるかもしれません。

大阪府南部を中心に活動するNPO法人きんぎつえびは「大阪ええまちプロジェクト（※1）」のプロボノ（※2）による支援を受けて、オンラインツールを活用したことがない高齢者に対して、実際に使うまでのハードルを下げ、Zoomなどを利用してもらうサポートのための手引書を作成しました。「やってみよう！」と「どう教えるの？」のヒントとして地域福祉活動に活用ください。

- ※1 大阪ええまちプロジェクト…オール大阪で高齢者の社会参加や生きがいづくり、介護予防への機運を醸成することを目指すプロジェクト（認定NPO法人サービスクラントが大阪府の委託を受けて実施）
- ※2 プロボノ…仕事で培った専門的なスキル・経験等を生かしたボランティア活動

ここがポイント① 端末別に解説

どんな端末でZoomを使うかによって、画面や操作が少し異なります。この手引書は、パソコン用、Windows10版、スマホ用にiPhone版、Android版の3種類が用意されているので、講師の説明する画面や資料と、自身の端末の画面が違ってどこを説明しているか分からないということがあります。

ここがポイント②

初心者が見て分かりやすい実際の画面でどのように表示される

るかがそのまま掲載されているので、どこをどのように操作するのかが一目で分かります。

ここがポイント③ 初心者への教え方がわかる

初めてZoomを使う人がつまづいたり迷ったりしやすい部分をていねいに解説しています。教える側が知っておくと、初めての人にもスムーズに理解してもらいやすいです。この手引書は、「大阪ええまち Zoom 手引書」で検索、「高齢者にとって分かりやすくやさしく取組めるZoom利用手引書」ページから無料でダウンロードできます。パソコンからのダウンロードをお勧めします。

Zoom（ズーム）とは？

Zoomとはインターネットを使って誰でも会議などに参加できるビデオ電話のようなシステムです。

「さあ！Zoomを使ってみよう」

★ 目 次 ★

1. Zoomって何ができるの？
2. 事前チェックリスト
3. スマホにZoomの設定をしよう！
4. Zoomに参加しよう！
5. Zoomで会話しよう！
6. Zoomの終わり方
7. 次回（2回目）以降の参加の仕方
8. やってみよう！バーチャル背景

2. 事前チェックリスト

（必ず確認！わからなかったら周りの方に確認を！）

項目	チェック
① Zoomはパソコンを使いますか？ パソコンにカメラはついていますか？	☐
② ※パソコン画面左下の「か」をクリックして「か」行に「カメラ」があればOKです！	☐
③ パソコンのカメラの位置はご存じですか？	☐
④ パソコンはインターネットに繋がっていますか？ (Wi-Fi接続はできていますか？)	☐
⑤ LINEやメールなどで主催者から招待は届いていますか？ (ZoomのミーティングIDと（スコードを確認） ミーティングID：10桁の番号 スコード（パスワード）：6桁の数字（英数字）	☐

IDとスコードは「部屋番号」と「鍵」みたいなもん！
めっちゃ大事！
大切に保管してヨソには教えないでくださいね。



Windows10版

5. Zoomで会話しよう！（Zoomの操作ボタン1）

② マイクのオン/オフ（こちらの音声を送る/送らない）の切り替え



「あれ？私のスマホ、このボタンがないで？」
見つからない。時はスマホの画面の右下の隅を1回タップしてみてください。
（パッと表示されるで。）

あなたの声は
みなさんに
聞こえています。

タップで切り替え

あなたの声は
みなさんに
聞こえていません。

ボタンを出しっぱなしにしたかったら、
詳細>ミーティング設定>
ミーティングコントロールを
常に表示を「ON」にしたら
ええで。

Windows10版

5. Zoomで会話しよう！（Zoomの操作ボタン3）

④ しやべっている人の画面を大きくしよう



Aの時に画面上で
右から左へ
スワイプするとBに

スワイプで切り替え

Bの時に画面上で
左から右へ
スワイプするとAに



しやべっている人の
画面に切り替わります。

iPhone版

ICTの壁を壊せば、世界は広がる

～全3回の「シニア向けZoom講習会」を開催～

11月17日、都島区社協では生活支援体制整備事業と地域包括支援センターの主催で「シニア向けZoom講習会」の2回目を開催した。開催の目的は「ICTによって生じる情報格差をなくすため」と都島区社協・生活支援コーディネーター佐々木さやかさん。佐々木さんは区内のマンションでZoomを使った住民同士のつながりづくりをサポートし、それを広報誌に掲載。すると区民から様々な問合せがあり、ニーズがあることを感じていた。一方、包括支援担当の月元三幸さんも「スマホや

タブレットを持っているのに活用できていない」という声を聞いていた。それぞれニーズがあるなら「一緒にやってみよう」ということで開催に至った。

対象は、自宅にインターネット環境があり、マウス操作や文字入力ができる60歳以上のパソコン所持者。費用は、全3回で1000円。定員10人に61人の申込みという、予想以上の反響があった。

講師はNPO法人きんきうえぶの協力を得た。第1回目の11月9日は「ミーティングへの参加方法」、第2回目の今回は



受講者全員が、Zoomをこれからの生活にどう活かすのかを決めている

「ミーティングを主催する方法」を学んだ。この間に自由参加の復習会を設け、よりていねいに受講者の理解の確認やオンラインで人とのつながりを実感できる楽しさを伝えた。具体的には呼吸器専門医によるコロナに関する講義を受講したり、旅の思い出を語りあったりした。自らZoomにアクセスし、情報を得て、コミュニケーションを図る感覚に慣れもらうためだ。サポート

トが細やかな理由について月元さんは「知っているだけでなく、実際に使ってもらえるレベルを目指しています」と話す。教える方の本気は、受ける方にも伝わる。前のめりの姿勢で講義を聞き、中にはわかるまで何度も質問している人もいた。

ある男性受講者は「退職後、お互い家庭の事情が変わり、遠方に引っ越した人もいます。バラバラになった友達に声をかけ、オンライン飲み会を主催したいですね。顔を見られるだけでもいいんです」と語った。

83歳の女性受講者は「海外にいる友人と話したい夫のために、わたしが代わりに勉強してセッティングしてあげようと思っています」と話す。みなしっかりとした目的を持って参加されていた。

「一般に高齢者はデジタルに興味がないと思われがちですが、講習会を開いてそれは思い込みであることを確信しました。80代でもチャレンジされる方はおられます。ステレオタイプの高齢者像でなく、一人ひとりの輝くポイントに働きかけ続けていくことが大切だと思います」と佐々木さんは力強く語った。

風をよむ

人と動物の社会関係を地域生活の質の向上に活かす可能性

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 助教

清水由香

福祉領域で語られる動物の話題は多様性をもってきた。動物への愛着行動（鳩や猫など餌やりなど）が地域の環境問題に発展することや、高齢や障がいのある単身者が入院や介護施設への入所によって残したペットの世話問題、あるいは生活困難のある人の多頭飼育問題などの事例があるだろう。

以上は「問題」としての人と動物の関係であるが、人の生活の質の向上が期待される事実もある。菊水健史教授（麻生大学ヒトと動物の共生科学センター長）らによると、犬と人間とのコミュニケーション（見つめ合う、撫でられる）により人間も犬も癒しや幸福を感じるホルモンが分泌されるという。あるテレビ番組を偶然視聴し、筆者はその研究を知った。同センター・茂木一孝らは思春期の子どもたちの幸福感と犬の飼育が関連するという成果※を近年報告している。また、高齢者の健康を研究する星旦二ら

は、「犬猫を飼育する高齢者における13年後の要介護予防効果」（2018年）という論文で、年間収入があつての犬猫の世話が主観的健康観、外出頻度を高め、要介護の重症化を防ぐ効果を示した。それらの結果はとも興味深い。盲導犬、介助犬、ファシリテイドッグの活躍の他、様々な場面で犬等の動物は、人間の生活への心理社会的な貢献力がある。最近では、ペットと同居できる有料老人ホームや、動物介在の効果の特徴をそなえた障害者や認知症対応のグループホームなどの情報や広告などを目にする機会が増えた。登下校中の小学生らの見守りを兼ねて、その時間に犬の散歩をしよう、という地域活動もあるようだ。動物と人の社会生活をめぐる「問題」と生活の質向上の効果をつなぐアイデアがさらに良い方向で生まれることを期待したい。

※ <https://azabu-asb.amebaownd.com/posts/8644950>

こんなこと **私たちの施設から** 34 やってます!

社会福祉法人 **治栄会**

相談機能強化を目指して

社会福祉法人治栄会は昭和54年に認可を受け、法人開設40周年を迎えました。障がい福祉サービスのほか、特養などの高齢者福祉事業、保育園・認定こども園の保育事業を運営しています。今回はここ数年で特に力を入れている「居住支援法人」事業についてご紹介させていただきます。

現在治栄会では障がい者を対象とした計画相談事業、高齢者を対象とした居宅介護支援事業所、大阪市から委託を受けている総合相談窓口事業、認定こども園における子育て支援事業、保育園におけるスマイルサポーターの配置など種別ごとに相談窓口を設置しています。加えて、平成30年度より大阪府より居住支援法人の認可を受け運営しています。

この居住支援法人の正式名称は「住宅確保要配慮者



住宅確保要配慮者の方の
部屋探しをお手伝いします

居住支援法人」となります。事業の内容は『住宅確保要配慮者（低所得者、被災者、高齢者、障がい者、子供を養育する者、その他住宅の確

保に特に配慮を要する者）の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し家賃債務保証の提供、賃貸住宅への入居に係る住宅情報の提供・相談、見守りなどの生活支援等を実施する法人として都道府県が指定するもの（国土交通省HPより抜粋）』とされており、令和2年9月末現在、全国で356件が認可を受けています。

事業担当者は法人内の施設に常駐している大阪府社協の社会貢献支援員の方と連携しながら、住宅に関するお困りごとへの支援をおこなっています。今年度は新型コロナウイルスの影響で様々な住宅に関するニーズがあります。支援を必要とされる皆様が安心して生活できるよう、担当者は日々奔走しています。治栄会が主に担当する地域は法人が所在する隣接区である大阪市都島区、城東区、旭区、鶴見区、東淀川区などになりますが、他の地域からお問い合わせをいただく機会も増えています。

今回紹介させていただきました居住支援法人をはじめ、生活に関するお困りごとに対して「ワンストップ」で相談を受けられる窓口となれるよう今後も法人全体で取り組んでいきたいと思ひます。

住所 〒534-0027
大阪市都島区中野町5-10-70
電話 06-4253-8055 HP <http://www.jieikai.or.jp/>

市社協
みなさんの善意を
社会福祉の発展に

市社協ではさまざまな福祉事業に活用させていただくため、寄附を募集しています。

市社協のさまざまな福祉事業に、有効に活用させていただきます。

大阪硝子株式会社から5月18日に続き、11月16日に25万円の寄附をいただきました。同社の意向を受け、市社協が実施する「地域こども支援ネットワーク事業」に有効に活用させていただきます。

また、アサヒ飲料株式会社近畿圏統括本部から10万円の寄附をいただき、10月29日の収授式では感謝状を手渡しました。



アサヒ飲料株式会社近畿圏
統括本部へ感謝状を贈呈

祝 各種表彰

市・区社協、民生委員児童委員協議会(民児協)の主な関係者の受章は次のとおり。(敬称略)

◆秋の叙勲・褒章

- <瑞宝単光章> (社会福祉功勞)
浦野 英男 (市社協評議員・此花区民協会員)
- <瑞宝単光章> (社会福祉功勞)
信野 房代 (港区民協会長)
- <藍綬褒章> (社会福祉功績)
一本松三雪 (市社協評議員・天王寺区民協会員)

◆厚生労働大臣表彰

- <ボランティア功勞>
大垣 純一 (市社協評議員)

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心



月々保険 地震保険 火災保険

www.ms-ins.com